



ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 41

★ 利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料を紹介します。
(書名の後の () の数字は請求記号です。)

問 マリリン・モンロー来日の際の様子(昭和29年2月1日)について

答 「マリリン・モンロー」「マリリン」「モンロー」をキーワードとして
検索してみます。

例) → → (182件該当)
※モンロー主義他も含まれてしまいます。

当時の新聞・雑誌記事

『朝日新聞縮刷版 昭和29年1-3月号』(071 A82 1954-1)

『週刊朝日 昭和29年1月3日-2月28日号』(051 Sh99 1954-1)

『週刊読売 昭和29年1月31日-2月28日号』(051 Sh99 1954-1)

『主婦の友 第38巻第3号』(051 Sh99 38-3)

→マリリンとディマジオが結婚に至るまでの経緯が紹介されています。

映像資料

『読売国際ニュース No.255』

※図書室では音声が出ません。5階の映像・音響室でご覧になれます。

☆マリリン・モンローの略歴

『100人の20世紀 下』(209 A82 2)

『二十世紀の千人 第9巻』(280 A82 9)

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

今回の検索案内は、なんとマリリンモンローがキーワードです。筆者自身「オーッ！」と感激しました。モンローが日本に来たとき、筆者は小学生、死んだときは中学生でした。映画はあまり見ていませんが、モンローは印象深い女優です。

モンローの写真集や伝記はいくつかありますが、最近ドイツのタシェン社で出した写真集は、モンロー自身の書いたノートなども再録されていて特色があるほか、若いころの写真が多く、ダイレクトメールを貰って、チョット悩んでから注文しました。

以前写真雑誌「フォーカス」にモンローが（まだデビュー前ですから、本名のノーマ・ジーンですね）第二次世界大戦中、18才位のとき、軍需工場で働いていたときの写真が掲載された事がありました。後のマリリンモンローも、作業服を着て、飛行機のプロペラを抱えていました。説明には飛行機の、とありましたが、写真に写っていたプロペラは小さなもので、一見して対空射撃の標的用無人小型飛行機用のものだったことを覚えています。アメリカの少女達も、軍需工場に働きに行っていたのですね。

日本では国家総動員法で小中学生まで動員しましたが、アメリカではどうだったのでしょうか。アメリカでは、真珠湾攻撃を受けると、直ぐに大学生を飛行機のパイロットとして募集し始めましたが、日本が同じような大学生パイロットの募集を始めたのは昭和18年で、アメリカよりも2年も遅れていました。軍需工場もアメリカでは早くから3交替制をとって24時間操業をしていましたが、日本の工場では、残業はしても24時間操業ということはなかなか実施しませんでした。考えてみると、潜航艇で敵艦に体当たりするという戦死を前提とした攻撃を、初めて実行したのはアメリカ海軍です。日本人も必死だったと思いますが、アメリカ人のほうが、もう少し余計に必死だったのかもしれない。こんな形で必死にならなくても良い現在は、幸せですね。（午睡）



—図書室から—

例年より早かった桜の開花・初雪など足早な季節の移ろいに、なにやらあわだだしい1年でした。社会情勢も低迷、複雑化していますが、気を取りなおして、新たな年を迎えましょう！

*昭和館刊行物「昭和館館報 平成13年度」「昭和のくらし研究」が発行されました。

平成13年度事業報告である「昭和館館報 第3号」、研究紀要である「昭和のくらし研究 第1号」が発行されました。図書室開架、新着雑誌棚にありますのでご覧ください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 41

2002年12月22日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1